

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19530715
 研究課題名（和文）未刊行資料の解読によるフレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の成立過程の研究
 研究課題名（英文）A Study of the Birth of the Song and Music of Froebel's Mother Play(“Mutter-und Koselieder”) : Examining its Unpublished Material
 研究代表者
 小笠原 道雄 (OGASAWARA MICHIO)
 広島文化学園短期大学・その他・学長
 研究者番号：10053612

研究成果の概要：今回の調査研究まで全くその成立過程が不明であったフレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の成立過程が、ドイツ統一を期に、資料が統一保管された「ベルリン陶冶史研究図書館」並びに、バート・ブランケンブルク「フレーベル博物館」所有の未刊行資料の解読によってはじめて明らかとなった。本著は『絵』『詩』『歌』が三位一体となった 19 世紀ヨーロッパでも類をみない「育児書」であるが、絵の制作、詩の作成時期、更には作曲の時期等の時間的相違や絵・詩・歌のそれぞれの担当者の考え方の違いから、発行年、月日が異なって印刷、刊行され、結果的に、発行年なし(o.j.)のまま刊行された。又、内容も、フレーベルの当初の意図とは必ずしも同一ではないことも今回の研究で明らかとなった。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|-------------|-------------|-------------|
| 2007 年度 | 1,900,000 円 | 570,000 円 | 2,470,000 円 |
| 2008 年度 | 1,600,000 円 | 480,000 円 | 2,080,000 円 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,500,000 円 | 1,050,000 円 | 4,550,000 円 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：Fr.フレーベル, 家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』, 幼稚園, 遺稿, 遊具。

1. 研究開始当初の背景

フレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』については、その成立過程や刊行年月日が不詳のまま、その弟子の R. ランゲの編纂による第二版(1866)以降の書物が全世界に伝搬し、それがフレーベルのオリジナルな著書として理解され普及した。2005年11月、「フレーベルの遺稿に関する Finbuch の作成」調査のため、ベルリンの「陶冶史研究図書館(BBF)」を訪問調査中、全く偶然なことからBBFの地下保管室でFr. ウンガーの絵(スケッチ)を発見し調査し、一部重要な箇所を写真による資料収集ができた。他方、R. コール作曲の楽譜に関するオリジナル資料については、バート・ブランケンブルクの「フレーベル博物館」が所有していることが判明した。それらの事前調査の結果を踏まえて、今回初めて、そのオリジナル関係資料(未刊行資料・遺稿)の解読によって、原著の錯綜した成立過程を解明し、かつ、本書に込められたフレーベルの教育的意図が明らかとなった。

2. 研究の目的

Fr. フレーベルの未刊行資料(遺稿)の収集・解読を通じて、フレーベル教育学の到達点と思われる晩年の主著、家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』(Mutter und Kose-Lieder)の成立過程を解明し、原著に込められたフレーベルの教育的意図の本質を解明する。

3. 研究の方法

(1) 家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』に関する未刊行資料(遺稿)の内、「ベルリン陶冶史研究図書館(略称; BBF; Bibliothek fuer Bildungsforschung)」に保管されている関係資料、特に、画家 Fr. ウンガー(Unger)の絵の制作に関する資料の収集と解読を通じてその成立過程を明らかにする。資料の解読には、同研究図書館の古文書専門家である U. バジコワ(Basikow)博士の指導を受ける。

(2) バート・ブランケンブルクの「フレーベル博物館(Friedrich-Froebel-Museum Bad Blankenburg)」所有の資料、特に、カイルハウ学園の音楽教師 R. コール作曲の「メロデー(音譜)」に関する資料の調査・収集・解読を通じて、その成立過程を解明する。資料の解読には、同博物館所長の M. ロックシュタイ

ン(Rockstein)女史の指導を受ける。

(3)ベルリン国立図書館に保存されている、プロイセン文化財団所有のフレーベル遺稿(カイルハウ遺稿(KN 遺稿))も併せて調査し、比較検討する。

(4)上記(1)(2)(3)の研究によって、家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の原型を資料的に復元して、本書に込められたフレーベルの教育的意図の本質を解明する。

3. 研究成果

本研究によって、

(1)わが国は無論のこと、ドイツ本国でも初めて、フレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の複雑なその成立過程が解明された。具体的に述べれば、発行年月日が不明で、刊行年不詳(o.j.)とされてきたが、その原因は、Fr. ウンガー制作の『絵』とフレーベル作の『詩』は、ほぼ、1843年11月には作られていたが、R. コールによる作曲が難航し、1844年2月18日にはじめて印刷されることになり、結局、『音譜(メロデー)』は別冊、付録として刊行されることになった。つまり、『母の歌と愛撫の歌』の内、絵と詩を本体とする部分(絵本)と、音譜が別々の二冊本として出版されることになった(『音譜』は付録とされた)。しかも、それぞれ異なった場所で、異なった年月に印刷、出版されることになった。そのために、『母の歌と愛撫の歌』は、刊行年不詳(o.j.)として世に出回るのである。

(2)併せて、フレーベルが当初抱いていた本書に込めていたその教育的意図が変容されていく過程も解明された。具体的に述べれば、当初フレーベルは、家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』を、母-子-関係の身体的触れ合いを出発点として考え、絵と詩とメロデーが三位一体として乳幼児に作用する育児書であることを目的に構想し、制作に入った。しかしながら、自作の詩を「音に描く(Tongemelde)」ことが R. コールの曲では困難であることを自覚して、「メロデー(音譜)」本を付録として刊行することにした。その原因は、なによりも、R. コールによる「メロデー」が子どもにとっても、母親にとってもなかなかの「難曲」であった事実である。各国への伝搬の過程で、各国の「民謡」に編曲された事実がそれを物語っている。

(3)この件では、また当時の出版事情も影響している。特に、出版業者のJ.マイヤー(Meyer)の意向が強く作用していると思われる。その結果、特に、本育児書を「芸術的にすぐれた本」に、つまり、親子が共に鑑賞することを主眼とする高価な「絵本」として印刷し、刊行することとなった。このことは、フレーベルが当初本著に込めた教育的意図、あるいは教育作用の在り方を根本的に変容させることになったと判断される。

(4)この件は、本書に対するフレーベル教育学の思想史的位位置ないし評価を二分することになる。つまり、O.F.ボルノウ(Bollnow)に代表されるように、本著を「ドイツロマン主義の精華」と位置づける立場とあくまでも、親子が共に身体的接触を図る「遊具」の一つと考える立場である。

(5)従って、以後刊行された家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』のランゲ版やプリューファ版からそのままフレーベルの本書に対する意図、目的を判断することは、多くの問題を背負うことになる。

(6)高価な美術書としての『母の歌と愛撫の歌』は、当時の一般家庭の育児書としてはあまりにも高価すぎて、普及せず、結果的に、千冊程度の印刷で、フレーベルには借金だけが残った。

(7)「言葉(詩)」、「絵」、「音(メロデー)」の「三位一体」と言うフレーベルの抱く「育児書」の理念は、今日の乳幼児の発達という観点から考えても、不滅の意義、意味を保持していると考えられる。

(8)今回の調査で、家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の「試し刷り本」が、ドイツのベルリン国立図書館(Staatsbibliothek zu Berlin)に「絵本」とその「付録」の形で「メロデー本」が保存されていることが判明した。

(9)本研究の過程で、わが国においては、『母の歌と愛撫の歌』の最初の印刷(「試し刷り本」)の内、『絵本』部分(本体部分)のみが京都大学中央図書館に保存されていることが確認された(メロデー本は欠落している)。

(10)本研究とほぼ同時期に、ドイツでは、Ch.コンラド(Konrad)女史が論者とほぼ同一の資料を収集し、それを解説し、エアランゲン大学に博士論文として提出し、受理されている。(Christiane Konrad, Die "Mutter- und Kose-lieder" von Friedrich Wilhelm August Fröbel-Untersuchungen zur Entstehungs- und Wirkungsgeschichte-, 2006) 尚、同博士論

文は、Konrad 博士から、直接、私宛 CD-R で寄贈された)。

(11)フレーベルの未刊行資料中「書簡」類については、H. ハイラント(Heiland)教授を中心とする Duisburg 大学フレーベル研究所とBBF の共同作業によって(ドイツ学術振興会(DFG)の財政的支援による)、2006年、5巻のCD-Rで公刊されている。従って、現在、フレーベルの書簡類に関しては、国外からでもインターネットを利用しての調査、検索や、さらには、解説が可能である。名称は KalliopePortal, <http://kalliope.staatsbibliothek-berlin.de/kd/hello.html> である。

(12)結論的に、フレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』は、当初、Fr. ウンガーの絵(その絵の中央にフレーベルのフレーベル自作の詩が印刷され貼付けされている)と R. コール作曲の「メロデー本」の二冊の「仮とじ本」として、1844年3月18日付で刊行された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 小笠原道雄、「未刊行資料の解説によるフレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の成立に関する考察」、『広島文化短期大学紀要』、第41号、1-12頁、2008、査読有り。
- ② 小笠原道雄、「ペスタロッター・フレーベル研究の現状と課題：フレーベル研究者の立場から」、日本ペスタロッター・フレーベル学会紀要『人間教育の探究』第20号、67-72頁、2008、査読有り。
- ③ 小笠原道雄、「フレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の成立に関する考察-未刊行資料の解説による考察(1)-」、日本ペスタロッター・フレーベル学会紀要『人間教育の探究』第19号、15-28頁、2007、査読有り。

[学会発表] (計 3 件)

- ① 小笠原道雄、「フレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の成立に関する考察-未刊行資料の解説による考察(2)-」、日本ペスタロッター・フレーベル学会第26大会(兵庫教育大学神戸サテ

ライトキャンパス)、2008.9.9.

- ② 小笠原道雄、「フレーベル研究の現状と課題」、日本ペスタロッチー・フレーベル学会第25大会(上智大学)シンポジウム、2007.9.10.
- ③ 小笠原道雄、「フレーベルの家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』の成立に関する考察(1)」、日本ペスタロッチー・フレーベル学会第24大会(岡山大学)、2006.9.9.

〔図書〕(計 1 件)

- ① 日本ペスタロッチー・フレーベル学会編,玉川大学出版部、『増補改訂版 ペスタロッチー・フレーベル事典』(増補改訂版編集委員として編集と同時に「フレーベルの生涯と活動」等,主要項目の執筆),2006.12.(1-505 頁)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小笠原, 道雄 (OGASAWARA MICHIO)
広島文化短期大学・その他・学長
研究者番号: 10053612

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者